12 月	豊川　愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

今年は暑さが長引いたせいか、紅葉がイマイチさえない。樹種や地域差もあるが、紅葉する前に葉を落としてしまうものも少なくない。そんな中、例年どおり色づいたイチョウを見るとありがたいなあと思う。

12 月になると草木の花を見つけることはほとんどなくなるのだが、豊川右岸、牛川の渡しのやや上流の堤防道路で、えらいにぎやかに花をつけた木を見つけた。こんな時期に咲く花があったとは。調べてみると、シロダモの雄花だった。資料によると、通常の花期は 10～11 月とあるので、12 月に咲くというのはかなりの遅咲きということになる。これも秋が遅れた今年特有の現象なのだろうか。

シロダモはクスノキ科で、ヤブニッケイ、タブノキと葉が似ている。この地域では河畔林や雑木林でよく見かける。ただ、遠くから見ると、花が葉に隠れている上に、色が地味で、さらに高木であるため、花が咲いていてもなかなか気づくことはない。堤防道路は河川敷との高低差があるため、通常なら頭上に広がる木の枝を間近で眺めることができる。特にこのあたりは道路と河畔林の木の枝とが接近している場所である。おかげでふだんは見れない花を観察することができた。

～渡し跡②～

◯行明の渡し

現在の下条橋のやや上流にあったのがこの行明の渡し。ただ通り過ぎるだけなら、かつてここに渡し場があったとは誰も思わないだろう。しかし、行明の渡し跡にはかつてそこに渡しがあった明確な形跡が残されている。牛川の渡しのところでも紹介したが、両岸にワイヤーを張り、それをさらにワイヤーで船につなぐ「岡田式渡船方式」で使われた、ワイヤーを張るための支柱が下条橋右岸から少し上流に向かった地点に残っている。最近は桑の木が生長し、冬場以外は枝葉が生い茂って隠れてしまうが、この季節だと葉が落ちてしまっているため見つけやすい。ここから両岸の岸辺を見るとかつて渡し舟を係船していたであろう船杭や乗船場の跡を見つけることができる。

行明の渡しは下条橋の開通に伴って廃止された。記念碑が建てられている当古や天王の渡し跡とは異なり、行明の渡し跡には記念碑があるわけではない。しかし、渡しの痕跡が最も残っているのがこの行明の渡し跡である。